



市政同志会  
福原 敏弘 議員

**学校教育について**

**問** 新学習指導要領に伴う英語の教科化に対しての外国人教師の派遣では、指導内容で何を重点に置くのか。

**答** 教育長 福井県内の全小学校では平成30年から移行期間がスタートする。小学校3・4年生で、聞くこと・話すことを中心とした外国語活動を導入し、英語に慣れ親しみ、学習への動機づけを高めるための指導を年間35時間行う。5・6年生では段階的に英語の文字を読むこと・書くことに加え、系統性を持たせた教科として年間70時間学習を行う。

**問** 豪雪時における小・中学校の対応について。

**答** 教育長 今回の大雪に対する学校の対応について、一部学校長の判断が遅れ保護者の皆様や地域の皆様にご迷惑をおかけした。災害、非常の変災時<sup>※1</sup>については、法令では原則として学校長が臨時休業や始業時間を遅らせるなどの判断を行うとなっており、登下校時の安全確保が図れないという場合には、このような対応をとることになっている。校長会の席上で今回の大雪を教訓に今一度各小・中学校の危機管理マニュアルを見直していただき、災害時において

は、まず第一に児童・生徒の登下校時の安全確保に向けて教育委員会と情報交換をしながら対応していくことを改めて確認し、状況判断を早めにして保護者に知らせることもお願いした。教育委員会としても、災害対策本部の会議に出席するので、気象予報や道路の状況なども各小・中学校に連絡し、また、各小・中学校から道路状況の改善要望等を本部に連絡するなど十分に連携しながら、努めていきたい。

**そのほかの質問**

○鯖江市の今後の財源確保について

※1：非常の変災  
災害等の緊急事態のこと



**北陸新幹線について**

**問** 特急存続について、活動を始めて3年ほどたつが、いまだかつて

答えというものは出ていない状況で、相変わらず不透明である。そういった中で昨年衆議院議員選挙が行われ、それからというものこの数か月間は全くと言っていいほど動きがなくなってしまうのが現状ではないかと思うが、状況は。

**答** フリーゲージトレイン導入の先行事例になる予定の九州新幹線長崎ルートにおいて、昨年9月末に与党検討委員会が国土交通省に対し、フル規格、ミニ新幹線方式での導入に関する調査およびフリー



市民創世会  
石川 修 議員

ゲージトレインの再調査を実施し、本年3月末までに報告するよう要請をした。併せて、

車軸強化など新たな摩耗対策を実施するよう求めており、いまだフリーゲージトレインに関する結論が出されていないという現状。このような中、西川県知事は昨年10月の定例会見において、長崎ルートでフリーゲージトレインが導入されない場合は並行在来線への特急乗り入れというやり方とは大きな方法の一つと述べられ、フリーゲージトレインができないなら特急存続の議論になると、導入の可否判断を待つて次の行動に取り組む姿勢を改め

て示し、国土交通省やJR西日本に対し早期判断を要望された。本市としても、与党PT福井駅先行開業等検討委員会の委員の選任と早期開催について、本県選出の国会議員を通じて要望を行っている。

また、先月26日には鯖江市、鯖江市議会、鯖江商工会議所、鯖江公共交通振興会により、JR西日本金沢支社長に要望書を提出し、北陸新幹線敦賀開業から大阪開業までの期間における福井駅までの特急サンダーバードの乗り入れを申し入れた。

